

近隣の自然の変化に目を向ける No. 65

2022 年初の景色@芦花公園； 自然・人・動物・植物

Scenery at the beginning of 2022 in Roka park; nature, people, animals, plants

2022 年 1 月 25 日

2022 年の世界は新型コロナのオミクロン変異株の爆発的拡大の危機から始まり、今も収まる見込みが見えない。外出を自粛し、マスク、消毒に心がけ、三密をさけながら生活が勧められているが、仕事、会話、交流、食生活、経済・文化活動などの人間としての基盤が損なわれ、未来に負の影響を残すのではないかと、小さな私は気になる。一方で、人間はそんな柔ではない、経験をバネとして新たな世界が築かれる、と前向きに捉えようとしている人がおられる。中世のペスト、100 年前のインフルエンザ（スペイン風邪）パンデミックの歴史から教訓とし、近代医学をもってしても全世界で苦戦を強いられている新型コロナとの闘いから私たちは何を学ぶのか？自分事として、人類事としてもうしばらく向き合って行きましょう。

私が過度の悲観に陥らないよう心がけていることの一つは、自然の変化を見ながら生活すること。自分も自然の一部であり、自然の中で自然に支えられて生きている事を思うと、不思議に平安になれる。そこで身近な植物や気象、天体の変化に目を向け、写真に撮って友人とシェアすることが生活の一部となっている。これまでの 65 回以上の写真アルバムがその軌跡です。

今号は、新年明けに初めて見た自然の景色、毎朝芦花公園で続けている体操とウォーキングの途中で見た初春の花々をアルバムにしてみた。夜明け前の東空には**明けの明星（金星）**が明るく輝いている。1 年間で日の出時刻が最も遅い日(1/6, 6:52am)の体操は、互いの顔が識別できないほど暗いが、声を出しながら体操している。ラジオ体操が終える 6:40 には辺りが明るくなるので、親しい仲間と一緒に公園内を散歩する。妻は車椅子だが、園内の約 100 m を自力で車椅子を押して歩く。それが体と気持ちのリハビリになっている。ある TV 番組で、朝の太陽光を浴びて、身体を動かすと体全体が目覚め、心身共に健康的な一日が送れ、寝付きもよくなると言っていた。真冬の朝の体操はそれを実践していたようだ。

真冬に咲く数少ない花の中で、枯れ枝に先ず花を咲せるのが**紅梅**、続いて、澄んだ甘い香りのする**ロウバイ（臘梅）**、さらに地面から顔を出す**スイセン（水仙）**。椿も咲き始めているが、本番は 2~3 月だ。

※当写真アルバムは、近隣で見かけた四季の花を中心に取り上げて来ましたが、もうすぐ 2 年(周り)になります。するとやはり取り上げる花の種類は 2 度、3 度目の登場となるので、今号で一区切りとさせていただきます。

その代わりに、私が 8 年程前から毎年訪れていた「本橋野草苑」の草木の花の写真を編集して発行することにさせていただきます。次号以降のアルバムは「2 月の花」として 1 月末から数号に分けて発行する予定です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。